

尾崎紅葉

オノノキ

小説家、俳人。

慶應二年十一月十六日江戸生れ、明

治二十六年十月二十日歿（二六七一—一九〇三）。本名徳太郎。別號、こうんふ、

とく、この字、來春亭鬼笑、俗僧鐵顏、冬湖、初音里成、千子出堂、

千千萬、十千萬堂、十千萬堂紅葉、半可堂、半可通人、半道、南山生、

南山子、哈々、喜欲亭、嘯月山人、大愚、大愚先生、守江溜、客人葉、

寒齋軒秋風、尾崎、尾崎徳、尾崎生、尾、紅葉、尾、葉、尾軍師、徳、

徳太郎、悪太郎、愛愛道子、感光道人、我香、戲作堂、手那邊下足、

斜枝女史、攝津、新中納言有明、春亭鬼笑、時雨染益、有海、松葉林

雪、枕下有明、柳翠花紅樓のゝあるじ半可通人、桐のや主人、栗林、梧

井、森盈流、波南、波南、洲美、源慈太郎、無聊生、牛門子、狂文亭、

猶賦、猶賦山客、病葉、病葉生、笑雪女史、笠青、第一番作者、紅、

紅葉子、紅葉寺、紅葉山人、紅葉生、素蕩夫、縁山、縁山人、縁山治

史、縁山學人、縁山散史、縁山散士、縁山樵史、色亭、色亭主人、色

亭艶馬、芋太郎、花瘦、花紅治史、花紅情子、荒木花瘦、莊構津守、

萬琴足、葉生、葡萄簷のゝあるじ、蚊付、閑叟、閑賦、雨窓無聊生、雪

軒、雷紫、青少紙言、須田河原舟則、餘情生、鬼笑、麥浪、Tokk等。

明治二十二年帝國大學文科大學和文科中退。讀書新聞社入社。在學中

山田美妙、丸岡九華、石橋思案等と硯友社を興し、機關誌「我樂多文

庫」を發刊。江戸の戯作の學び「伽羅枕」等の代表作を次々と發表、

二十代半ばのころ門下四大王と稱せられた泉鏡花、小栗風葉、徳田秋

聲、柳川春葉を始め多くの門弟を擁し大文壇の大家

となる。明治文學隨一の人氣作「金色夜叉」は、そ

の病死により未完となりた。



著書 『新體詞選』 (塚山數史名、合著・山田武太郎編、明治十九年十月)  
『月十』 『白香雲書屋』、 『比丘尼色懺悔』 (明治二十一年四月一日吉  
岡書籍店 『新著百種』)、 『風京人形』 (明治二十一年九月十五日大  
阪・好吟會 『新著叢詞』)、 『初時雨』 (明治二十一年十二月十日喜  
盛堂 『小説群芳』)、 『紅葉叢書・第壹卷 (南無阿彌陀佛)』 (明治  
二十二年一月一日駿々堂東京店)、 『此ぬし』 (明治二十二年九月一  
日春陽堂 『新作十番』)、 『國民小説』 (合著、明治二十二年十月  
二十日民友社)、 井原由鶴著 『男色大鑑 (本朝若風俗・第一卷)』 (訂  
正、明治二十四年一月十五日古書保存會 『惜字之庫』)、 『七十命の  
安賣』 (明治二十四年二月二十日春陽堂 『文學世界』)、 あんたあせ  
人作 『<sup>公人</sup>人探助』 (内題『一人むく助』補譯、明治二十四年二月二十  
日博文館 『少年文學』)、 『夏小袖』 (森益流名、明治二十五年九  
月一日春陽堂)、 『裸美人』 (明治二十五年十月二十日 <sup>東洋堂</sup>進化閣 『小品十  
種』)、 『寒帷子』 (宇江温名、明治二十六年二月十六日春陽堂 『鐵  
道小説』)、 『依黒兒 (依黒兒 金時説)』 (京鏡化合著、明治二十六年六月  
二十八日博文館 『少年文學』)、 『きこころ心』 (内題『男ごころ・前  
編』) (明治二十六年十月十二日春陽堂)、 『隣の女』 (明治二十七年六  
月十七日春陽堂)、 『紫一附録琴』 (江見水蔭合著、明治二十七年八  
月二十日春陽堂)、 『不言不語』 (明治二十八年六月二十日春陽  
堂)、 『笛吹川』 (おんぶし共作、明治二十八年十一月十七日春陽  
堂)、 『第七國民小説』 (合著、明治二十九年二月二十日民友社)、  
『冷熱』 (明治二十九年四月十七日春陽堂)、 『籠まくら』 (編、明  
治二十九年九月十二日春陽堂)、 『俳諧名家選』 (十千萬堂紅葉名、

- 編、明治二十九年七月七日春陽堂）、『青蘅藪』（明治二十九年十月  
 二十一日春陽堂）、『多情多恨』（明治三十年七月十八日春陽堂）、  
 『春陽文庫・第六編（西洋娘形氣）』（口授、柳川春葉筆記、明治二  
 十年十一月二十日春陽堂）、『金色夜叉』（前編、明治二十一年七月  
 六日、中編、二十二年一月一日、後編、二十二年一月一日、續編、二  
 十五年四月二十八日、『續續金色夜叉』（二十六年六月十一日春陽堂）、  
 『花衣一名二年吳服活業内』（合著、明治二十二年一月一日白比翁  
 助編刊）、『俳諧類題句集』全一冊（校訂、前編、明治二十二年十一  
 月二十三日、後編、二十四年二月二十日博文館「俳諧文庫」）、『書今六  
 札』（合著、明治二十四年一月二十九日春陽堂）、『寒牡丹』（秋濤  
 居士共作、明治二十四年一月六日春陽堂）、『夏爐冬扇（附録花）下  
 露』（合著、松田寅熊編、明治二十四年六月二十四日俳諧發行所  
 「俳諧叢書」）、『武藏（附録比呂）名橋東西短處之刃』（英文・T. KIMOTO  
 THE JAPANESE "DESDEMONA"」合著、明治二十五年一月一日春陽堂）、  
 『むら雀（西洋娘形氣）』（口授、柳川春葉筆記、餐庭堂村合著、明  
 治二十五年六月十一日春陽堂）、『史考』（明治二十六年一月十六日  
 エックス俱樂部）、『曲鶴文粹』全二冊（幸田露伴同輯、上卷、明治  
 二十六年二月一日、中卷、五月十九日、下卷、二十八年十一月七日春  
 陽堂）、曲山人補綴『假名文章娘節用』（校訂、明治二十六年五月一  
 十八日富山房「名著文庫」）、『俳諧新潮』（十萬堂紅葉名、輯、  
 明治二十八年九月十九日富山房）、遺著『葎紅葉』（明治二十八年十  
 一月十五日富山房）、江島屋其積作『世間娘氣質』（校訂、明治二十  
 六年十一月二十日富山房「名著文庫」）、『紅葉百人一巻』（明治二

- 十七年一月四日巖谷雄編、文祿堂書店發賣）、遺稿『病骨録』（巖谷雄編、明治二十七年二月一日文祿堂書店）、原著『脚本金色夜叉』  
 （小栗風葉脚色、明治二十八年六月九日春陽堂）、譯『金色夜叉』（THE GOLD DEMON）』（ターサーロイヤル英譯、壹・明治二十八年十一月十日、貳一再版、四十四年八月一日、參・四十二年五月十五日有樂社）、『紅葉書翰抄』（星野麥人編、明治二十九年一月二十二日博文館）、『睡蓮集』（合著・伊原青歌園後藏、宙外編、明治二十九年九月十九日春陽堂）、『紅葉の帳』（星野麥人編、明治四十年四月八日文祿堂書店）、『心中船』（明治四十年六月十五日春陽堂）、『古今名流俳句談』（合著・沼波 續活天竺百杜南編、明治四十一年八月二十八日内外出版協會）、『十千萬堂目錄』（思兼外史校訂、明治四十一年十月二十五日左久良書房）、『紅葉集』（第一卷・明治四十一年八月四日、第四卷・四十二年四月十六日春陽堂）、『紅葉遺稿』（篠山吟葉星野麥人輯、明治四十二年一月一日隆文館）、『紅葉遺稿』（明治四十四年四月二十日博信堂書房）、『幸田露伴共編、縮字・大正五年七月十五日春陽堂）、『紅葉句集』（久保樹葉編、大正七年一月二十八日俳畫堂）、又家『書簡紅葉のり小波へ一附省山珍文』（巖谷小波編、大正九年十一月一日手紙研究會）、『縮刷葉末の露』（金葉共作、五版・大正九年十一月二十五日大阪・博多成發堂）、『紅葉隨筆』（星野麥人篠山吟葉輯、大正九年十一月十一日隆文館株式會社）、『紅葉全作集』（第一卷、第二卷、第三卷・大正十一年九月二十五日、第六卷・十月二十五日春陽堂）、『子規紅葉漱石書翰』（聖柳勳編書、大正十二年六月十五日大阪屋號書店）、十千萬堂遺稿『紅葉山人俳句集』（瀨川諒山編、大正十

四年五月十五日河内書店）、  
『入女房』(昭和二年一月十五日岩波書店「岩波文庫」)、  
『尾崎紅葉傑作選集』(平山敬止編、昭和五年二月十日進文館本店)、  
『尾崎紅葉讀本』(野村光雄編、昭和十四年二月十五日新注社書店)、  
『金色夜叉』全一冊(上卷・昭和十四年四月二日、下卷・六月十五日岩波書店「岩波文庫」)、  
『多情多恨』(昭和十四年九月十五日岩波書店「岩波文庫」)、  
『金色夜叉』全二冊(上卷、下卷・昭和十四年九月二十五日、再刊上卷・二十七年一月二十五日、下卷・二月二十五日新潮社「新潮文庫」)、  
『二人妻』(昭和十五年四月十五日岩波書店「岩波文庫」)、  
『京人形』(昭和十五年七月二十日内外出版社「非常時體制版」)、  
『尾崎紅葉全集』(第六卷―鹽田良平編・昭和十六年六月二十日、第九卷―柳田泉編・十七年九月十五日、第五卷―本間入雄編・十一月十日中央公論社)、  
『尾崎紅葉集』(柳田泉解説、昭和十八年九月二十日河出書房「二代名作全集」)、  
『比丘尼色懺悔』(昭和二十年十一月二十五日岩波書店「岩波文庫」)、  
『多情多恨』(昭和二十二年八月五日鷺ノ宮書房)、  
『戀のぬけがら』(昭和二十四年六月五日筑紫書房「明治文學選」)、  
『不言語』(昭和二十七年二月五日岩波書店「岩波文庫」)、  
『伽羅枕』(昭和二十九年七月五日岩波書店「岩波文庫」)、  
『金色夜叉』(原作、謝訪二郎現代訳、昭和二十二年八月一日彩光新社)、  
『尾崎紅葉』(幸田露伴集、伊藤粹編、昭和二十九年九月二十日新潮社「日本文學全集」)、  
『金色夜叉』(昭和四十四年十一月十日新潮社「新潮文庫」)等。  
文獻、小栗風葉作『金色夜叉・終篇』(明治四十二年四月二十日、縮刷『終篇金色夜叉』大正四年七月十五日新潮社、再刊『終篇金色夜

又』昭和十年五月、千白「新潮文庫」、鈴木清方畫『金色夜叉繪巻』  
（明治四十五年一月一日春陽堂）、小栗風葉作『荒尾讓介』（明治四  
十五年八月十六日、縮刷、大正八年八月、千五百新潮社）、關莊一郎  
作『後の多情多恨』（大正元年十二月十五白有文堂）、小栗風葉作  
『終編荒尾讓介』（大正二年一月十五日新潮社）、木間久雄著『人及  
び藝術家としての尾崎紅葉』（大正七年二月、千二百新潮社）『最日本  
文藝評傳叢書』）、菊池曉江編『紅葉』（大正十年八月、千  
五百網島書店）『美文評傳叢書』）、柴田芳水編『紅葉の著書から』（大  
正十一年二月十五日大盛堂書店）、江見水蔭著『硯友社と紅葉』（昭  
和二年四月、千二百改活社）、巖谷小波著『金色夜叉の真相』（所謂の眞實  
一の告白）（昭和二年十二月二十八日黎明閣）、嶋田青峰著『子規  
・紅葉・露雨』（昭和十年九月十二日言海書房）、福田清人著『尾崎  
紅葉』（昭和十一年八月、千白弘文堂書房）『教養文庫』）、ダイジエ  
スト・シリーズ刊行会編『金色夜叉』尾崎紅葉の人と作品』（昭和二  
十五年十月五日ジープ社）、巖谷大四著『尾崎紅葉』（昭和四十二年  
七月十日人物往来社）『近代人物叢書』）等。